

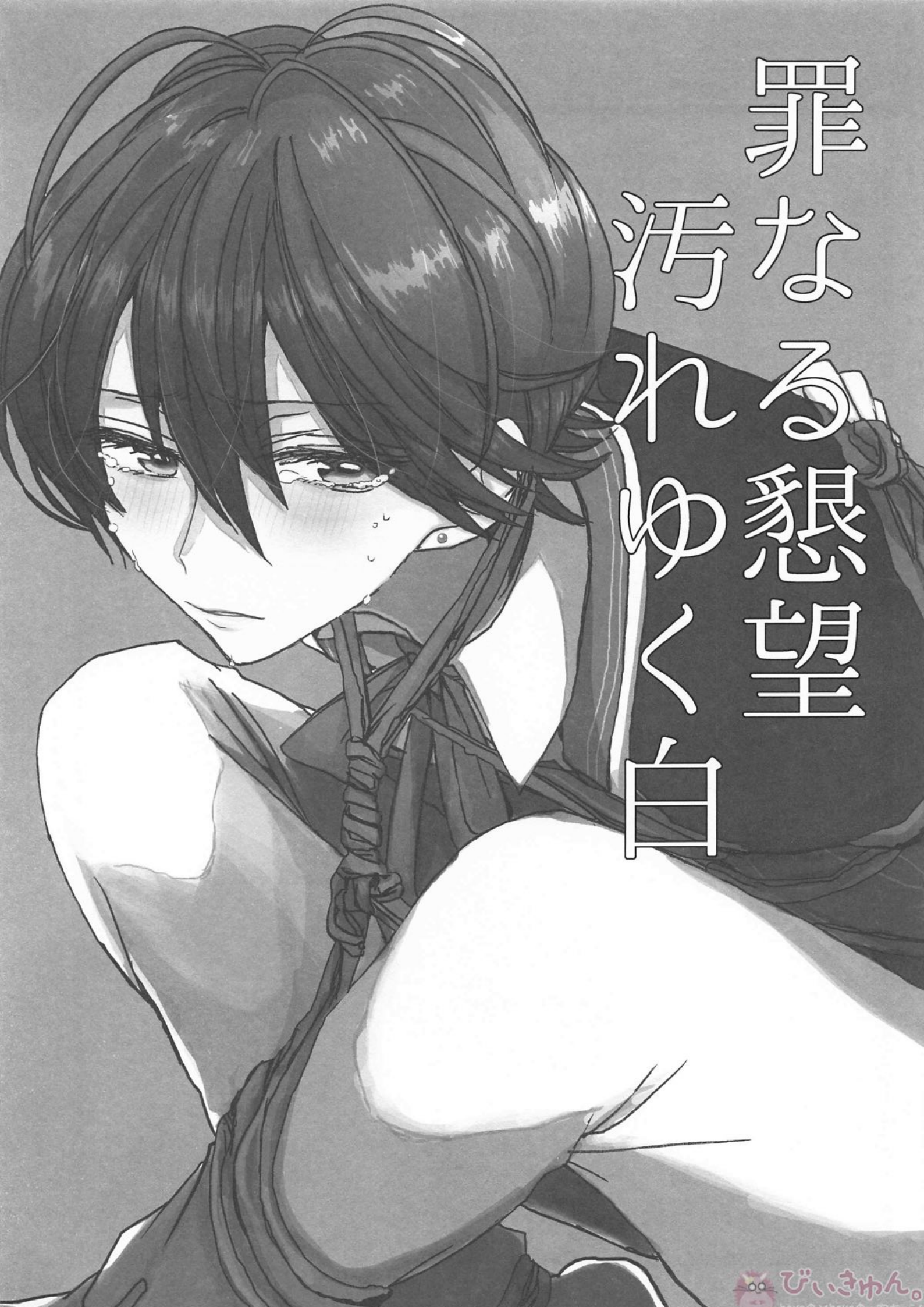


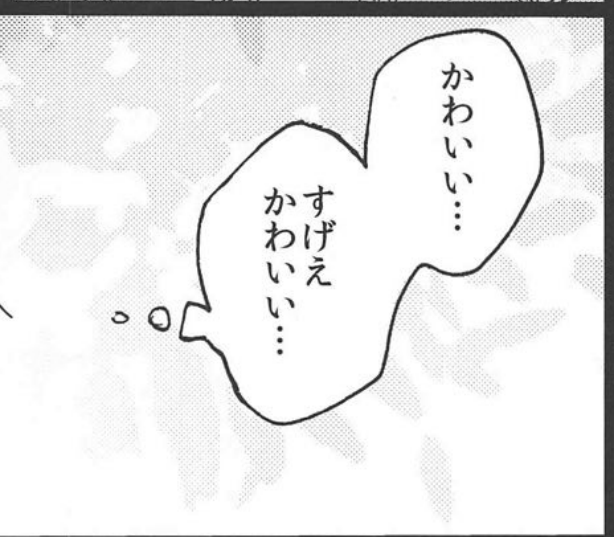
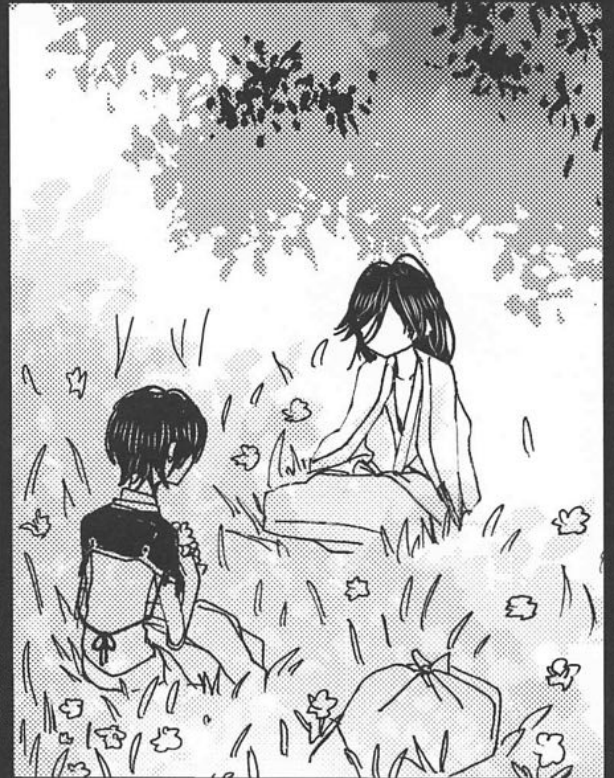
罪
な
る
汚
れ
懇
望
ゆ
く

白

TOUKENFANBOOK#3
KANESADA× HORIKAWA
20150503
NINGYOBako

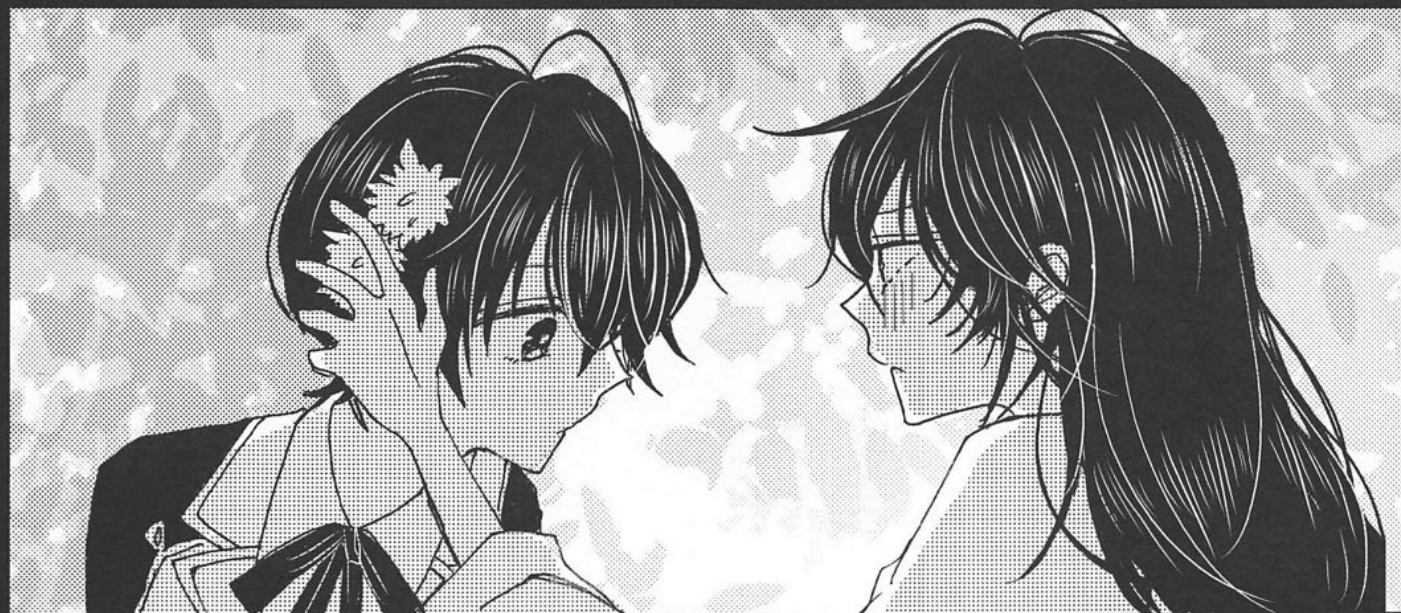
罪なる
汚れる
怨望
ゆく
白





俺は、幼いころから
国広のことが好きだった。

優しくて、穏やかで、
母のように、妻のように
尽くしてくれる国広に
恋をしていた。





そして

ふふ

ありがとう

国広は



僕

まるで
花のように
微笑んだ。

花を売るのが
仕事だから

花売り
なんて

国広に
似合ってるな

そのときの俺は
恐ろしいほどに無知だった。

ありがとう
兼さん

何も知らなかったのだ。そう、何も。

何かが
おかしいことに
気づいたのは、
それから数年後、
身体もすっかり大人に
なつたときだった。

花を売りにいくと、
夜にだけ仕事に向かう
国広に違和感を覚えたのだ。

おう、
頑張っ
てこいよ

じゃあ、
行ってくるね

安定、
兼さんのこと、
よろしくね

うん

お前も
気をつけて

しかしどうして
国広はいつも
夜に花なんて
売りに行くん
だろうなあ？

絶対昼間の
人もいっぱい
いて売れる
だろう？

なあ、安定

…知るかよ
そんなの

ンだよ、
その態度

夜だからこそ
花売りにな
行くんだろ

おい、加州！

お前つてさあ、
可哀想なくらい
無知だよな

「花は
夜に売りに行くもの」
というあいつの言葉が
どうにも引つかかっ

国広が花を売りに
出かけた晩、
俺は初めて国広の
あとを付けた。

そこは
知らない
屋敷の寝室だった。

なぜ国広が
こんな場所に、と
不思議に思いながら
部屋に近づくと、

声が聞こえた。

あつ

はあ

んっ

あ

俺が知らない。

国広の
声。

それは、
まさに花の
ようだった。

花のように可憐で美しく、
甘い蜜の香りで惑わせるような、

あつ
そこ、
やつ

あつ

俺の知らない、国広がいた。

耐えられなかった。

好き…

俺の国広が

目の前で
汚されるのが。



どうい
うこと
だよ

国
広

…言っ
たで
しょう？

花を
売
るの
が
仕
事
だ
っ
て

国広には花が似合うなって、言ってくれたでしょう？

だ
か
ら
泣
か
な
い
で

兼
さ
ん

嫌なものを見せてしまって、ごめんね。

僕はね、
贗作だから

例え
汚れた仕事でも、
こうして
生かしてもらえて
いるだけで
ありがたいよ

本当だったら、
いつ捨てられても
おかしくないような
身なのだから

それでも
仕事を与えられて
気高く美しい
貴方の隣に
いられるなんて、

これ以上の
幸せなんて

ありませんよ



これからもお前は

知らない男に抱かれ続けるのか

好きでもない男に甘えて、絡み付いて、



好きだとか、愛してるだとか、嘘をつくのか



そうだね



汚らわしくて

ごめんね



違う俺は

俺はお前にそんな顔をさせたいわけじゃない。

ただ、笑ってくれれば、

隣で幸せそうに笑ってくれれば、

俺は、

俺は、

国広

なあ



俺と

一緒に
なろう



もう、
あんな仕事
しないでもいい

俺の傍に
いいから

俺は…
お前を

幸せに
したいんだ



駄目だよ
兼さん

貴方のお嫁さんには
相応しい人は
きつといつかは
現れるから

例え僕に対して
哀れみを覚えたの
だとしても、

貴方のような
気高い刀がこんな
汚れた贗作にそんな
言葉をかけてはいけない

なっ

俺は
別に…っ！

哀れみとか
そんなんじや
なくて、
本当にお前の
ことが…！！

兼さん

僕は
貴方に

相応しく
ないよ

ああ、
悲しいね兼さん

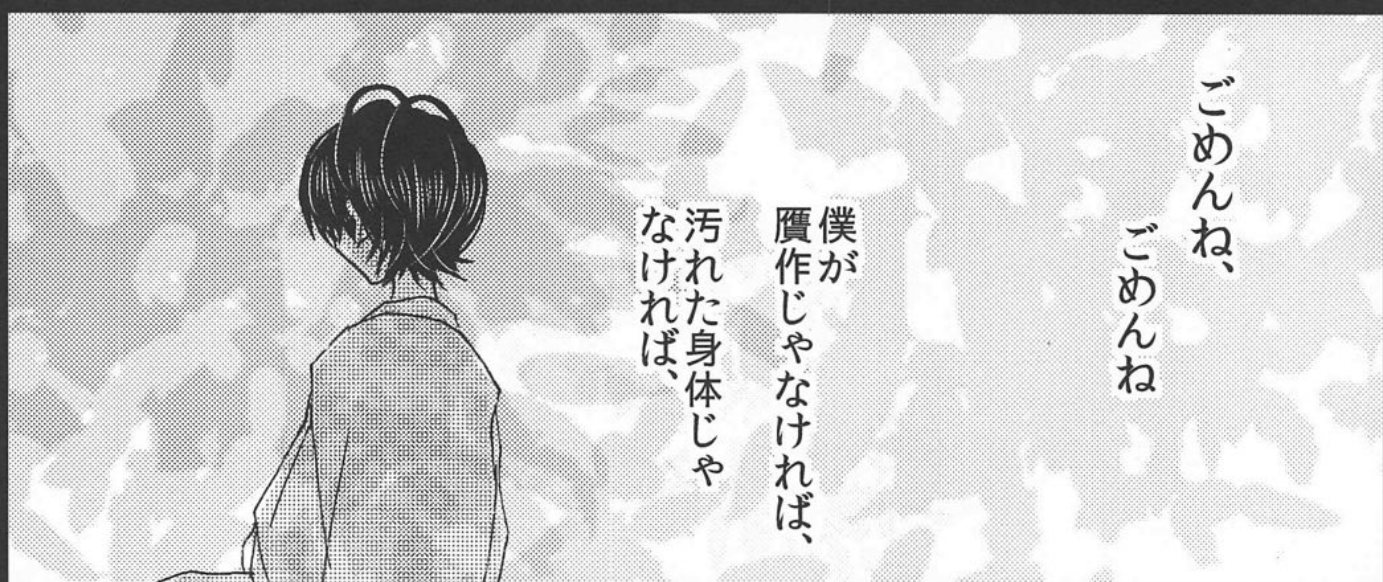


僕は、
最愛の貴方を
悲しませる
ことしかできない。



ごめんね、
ごめんね

僕が
贗作じゃなければ、
汚れた身体じゃ
なければ、





貴方と

出逢わなければ…

こんなにも汚れた僕を、
可愛いと、花のようだと
言ってくれた貴方が、
僕は眩しくて眩しくて、
仕方ありませんでした。



それから、国広は花を売り続けた。



気持ち良い

もっと欲しい

奥に出して

好き

おなかいっぱいにして



俺に全部聞かれてることも
お前を買った男が
行為が終わったなら
俺に殺されることも知らずに
淫らな姿を晒した次の日は、



汚い男の下で、
甘えるような高い声で
乱れて汚されて、

おはよう

昨夜のことが
嘘のように

兼さん

国広は

穏やかに、
真つ白な心のままで
優しく微笑むから

許せなかった。

あんなことをされた翌朝でも、
穢れなど知らないような
清らかさで微笑む国広が、

こんなに小さな
国広を汚す男達が、

国広を
守ってやることも
できない俺自身が。

何もかも
許せなかった。



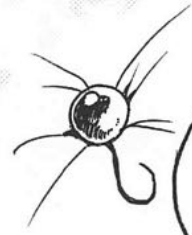


こんな
高価なもの…
いいの？

お前のために
用意したんだ

何だよ、
嬉しく
ねえのか

ピース…？



そうだ

嬉しいけど、
どうして…？



てめえが俺の
つがいだつて
自覚するように

せめて
揃いのピース
でもつて…

え…？？



これ

兼さんと
お揃い…？

ンだよ、
俺と揃いは
嫌か？



まるでそれは、
誓いのキスのようで、
幸せに満ち溢れていた。



その日僕は
はじめて兼さんと
回付けを交わした。



きつと、
これは罰なんだ。

僕なんか
貴方のような美しい刀と
幸せになりたいたいで
願ってしまっただから。



そしてそれは



あまりにも突然のことだった。

戦で破壊された和泉守兼定の羽織を
彼のつがいである脇差まで届けたとき、
その脇差は可哀想なほどに泣きじゃくっていた。

血で汚れた和泉守の羽織に
涙を流しすがりつく姿が

まるで
愛しい我が子を
失った母のように
かなしく哀れだったので

つい、声を
かけたくなった。

ただ
それだけだった。

堀川

そして

つがいを失った者の
流す涙の美しさに
心を打たれたのだ。

三日月さん…？

どうしたん
ですか？
こんな時間に

かわいい
脇差や

なあに、
お前を可愛がりに
きたのだ

その、優しく、
穏やかな声で紡がれる

「可愛がる」という言葉に
嫌な予感がして、

この人を
部屋に招いてはいけないと、
本能が警鐘を鳴らした。

しかし

その優しい瞳の
深海のような
蒼さに

不覚にも、
愛しいあの人の
蒼を重ねてしまい、

愚かな僕は、
その恐ろしい人を
この部屋に招き入れてしまったのだ。

う

あっ

やめ、

やめて
ください…

やだ、なんで、
どうして
こんなこと…っ

お前が毎日
寂しそうな顔を
しているもの
だから

ついでに
構いたく
なつてな

兼さん
…っ

やだ
兼さん…っ

はは、
愛しい和泉守の
名を呼ぶか

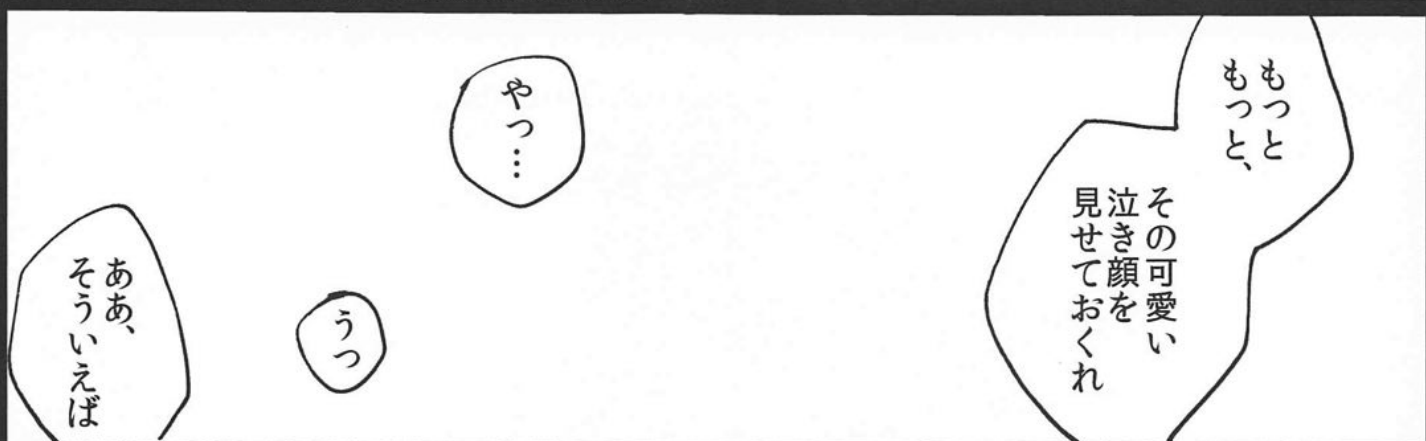
一途で
愛らしいことだな

しかし残念だな、
死者は呼んでも
助けてくれぬ

っ…

そうだ
兼さんは

兼さんは、
もういない





おやこれは
すまない

い、や…
か、返して…

あまりに柔い耳
だったもので、
千切れてしまったな

返して…
ください…



兼さんと、
お揃いの、
大切なもの
なんです…

あの人が、
僕にくれた
唯一の…



成る程、
これはお前の
宝物なのか？

お、お願い…
返して
ください…

そうか

そんなに
返してほしいか

ならば、
その身体を
俺に捧げろ

自分で
着物を脱ぎ、

「犯して
ください」と
ねだってみろ

兼さん

いめんなさい

あなたを裏切る
愚かで弱い僕を
どうか、どうか
許してください。

おかして…

くださる…

ああ

なんて
愛らしい
泣き顔だ

愛い奴よ

その顔が見たくて
たまらなかった。

かわいらしく、
かわいそうな脇差

可愛がって、
壊して、

たっぷり、
汚してやろうか



なかなか
良かったぞ
脇差

おぼこだと
ばかり思って
いたが

男を
知っている
ではないか

ピース…

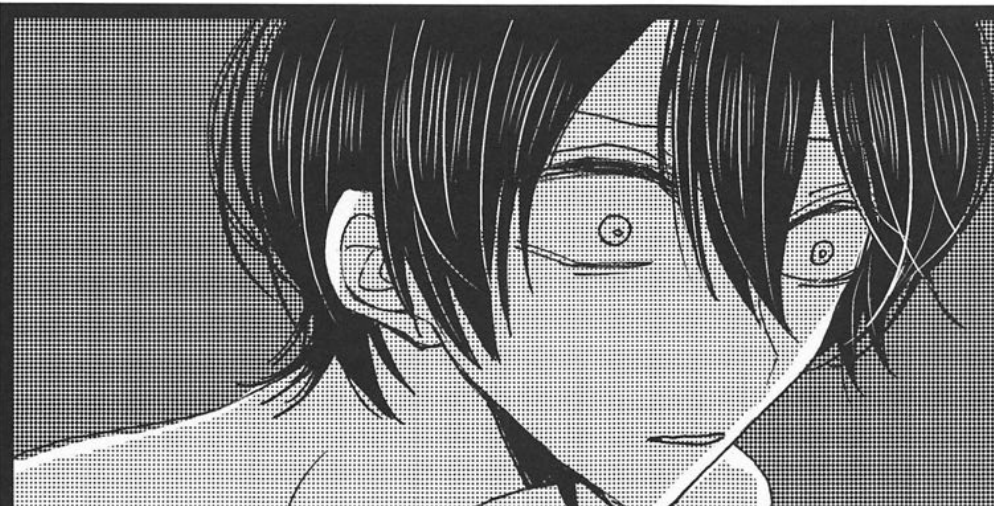
ピース…
返すって…
約束…

ん？

ああ

あれなら
捨てたぞ





あんなもの
未練がましく
持っていては
何も良いこと
ないだろう？



あ…

でめえが
俺のつがいだつて
自覚するように！

あ、あ…

せめて
揃いのピアスでも
と思つてな

う、ああ…



何だ

また
泣いて
いるのか？

兼さん

兼さん
ごめんなさい

弱くて
可愛い脇差や

僕は弱くて、汚くて、
貴方の気持ちを
踏みにじることしかできない

悲しむ
ことなど
何もないぞ

汚れた僕が、貴方を愛してしまったのは、
美しく優しい貴方が僕に愛を与えてしまったのは、

これから
俺が
可愛がつてやる

愛らしいな
お前は

まるで、
花のようだ

すべては、罪なる懇望だったのです。

はじめまして、ちふゆと申します。

ここまでお読みくださりありがとうございます。

バッドエンドの残酷なお話が描きたくてこの本を描きました。

花を売る=身体を売る、ということで、華奢な少年の見た目の脇差である堀川くんは、昔から身体を捧げた相手を暗殺したり、身体を捧げ信頼を得ることで情報を得たりと、そういうお仕事をさせられてたりしたら、兼さんはどう思うんだろう…と考えました。自分が幼いころから尽くして愛してくれている、清らかで、真っ白な堀川くんが、実は夜な夜な知らない男に汚されていたとしたら…。という。

次ページはこの本に入らなかったおまけの漫画を載せてます。

この本の話の後に、二振目の兼定がきたときの三日堀のちょっとした話です。

20150503 ちふゆ



大好きな
和泉守と
また会えて

嬉しいか

はは、
妬けてしまうな

お前は、
あの美しい刀と
自分が対なのだと

そう、
信じている
のだな

若いと
夢を見て、
幸せなものだな

あの
気高く美しい
兼定の刀と、

贗作の自分が
対等だとも
思っているのか？



やめて

片や
現在も大切に
守られている
名刀と

今はどこに
あるのかすら
分からぬ、

ドクン

嫌だ

ただの
贋作

ドクン



ドクン

なあ、
本当のお前は
一体どこに
いるのだ？

灰暗い
海の底か？
汚い小屋の
奥底か？

知りたくない

そんなこと、
考えたくも無い

なんにせよ、
それはさぞかし

ドクン



罪なる懇望 汚れゆく白

20150503

人魚箱/ちふゆ

<http://pixiv.me/monsirotan>

金沢印刷

この本の表紙、本文、すべての転載、引用を禁止します。





TOUKENFANBOOK#3
20150503
NINGYOBAKO

罪なる懇望
汚れゆく白